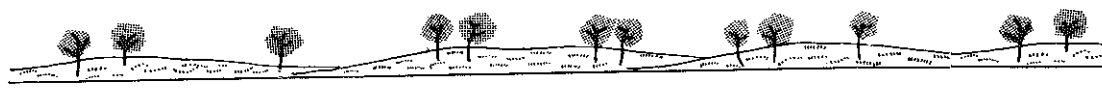


OB 会 会 報

ギターアンサンブル15周年記念特集

第 3 号

東京電機大学ギターアンサンブルOB会



— 目 次 —

◆ 座 談 会	一 「ギターアンサンブル十五年の歩み」	1
	二 「今後のOB会のあり方」	11
	三 「十五周年記念事業について」	13
◆ 会 員 近 況 報 告		
	三十八年度卒 金坂 武彦	14
	四十二年度卒 佐藤 実	14
	四十三年度卒 輪島 藤夫	15
	四十四年度卒 桑原 芳一	15
	四十五年度卒 竹内 克行	16
	四十六年度卒 西岡 保夫	16
	四十八年度卒 高木 一道	17
	五十 年度卒 湯沢 幸男	17
	五十二年度卒 蜂谷 恭一	18
	五十三年度現役部長 野原 好一	18
◆ 各年度行事予定及び定演プログラム		
◆ 五十三年度会計報告		19
◆ 十五周年寄付事業報告		32
◆ 行事予定		33
◆ 五十四年度総会および現役とのソフトボール大会のお知らせ		34
編集後記		35
(カット 五一年度卒 金井 健児)		36



技 術 者 募 集

あなたの優秀な技術力を充分発揮出来ます。

当社はデジタル及びアナログ技術を応用した各種測定制御機器を製造販売しています。

特にマイクロプロセッサ応用のシステムの特注品を製作しています。

- | | |
|-------|---------------------|
| 職 種 | ○ マイコンのハード・ソフト技術者 |
| | ○ アナログ・デジタル設計技術者 |
| 年 令 | ○ 26才までの方 |
| 給 料 | ○ 面談により決定します。 |
| 交 通 費 | ○ 全額支給 |
| 応募方法 | ○ 44年度卒 平野まで電話ください。 |

新卒の方も歓迎します。

株式会社 計測技術研究所
 横浜市港北区綱島東6-14-3
 TEL 045-543-1373(代表)

座談会「ギターアンサンブル十五周年の歩み」

昭和五十三年九月十日

新東京ホテルにて(電大五号館わき)

出席者

三十八年度卒	矢 沢 健 司
四十一年度卒	大 泉 誠
四十二年度卒	小 田 喜 信 博
四十三年度卒	高 松 滋 雄
四十四年度卒	桑 原 芳 一
四十七年度卒	野 本 直 人
四十八年度卒	石 井 利 雄
五十一年度卒	小 田 川 欣 市
五十二年度卒	玉 野 和 信
	蜂 谷 恭 一

矢 沢 皆さん今日はお忙しいところお集り頂きましてありがとうございます。ございました。これから、東京電機大学ギターアンサンブルが創立以来十五年を過ぎましたので、これを記念しまして「ギターアンサンブル十五年の歩み」と題しまして座談会を開きたいと思っております。今日は各年代から一名づつ御出席をお願いしましたが都合で来られなかった人が四、五名おりますので、その年度の活動の様子は前後の人によって補足していただきたいと思います。

私は三十八年度卒の矢沢ですが、まず最初にギターアンサンブル発足当時の様子をお話ししたいと思います。私が四年の時に当時三年でした内堀君から話があり、これからギター好きな仲間を集

めて同好会を作りたいから手伝ってもらいたいと三鷹駅前の喫茶店で会ったのが最初でした。そのころ私は三年間ほど水道橋にある音楽学院で個人的にギターを習っておったのですが、そのとき四年であと一年しか在学期間がなかったので、内堀君のあまりにも熱心な話に、それではやってみようかとゆうことになりました。

当時集ったのは十四、五人だったと思います。最初 カルリとか キュフナー等の練習曲の中から二重奏、三重奏の曲をみつけて練習しておりましたが、そのうち発表会をやるうとゆうことになり、本館の二階会議室を借り昼休みに演奏会を開きました。まだ始めて間もなかったものだから演奏曲目が少く、すぐにも終りそうだったので、司会の山崎君になるべく話を長くして時間を引き延ばしてくれとたのんだものでした。曲は、合奏が三、四曲と、独奏が内堀君、日比君そして私の三人でしたが全部で二十分程度のステージを持ちました。当時、電大では高校が一諸だった為、お客の半分以上が高校生でしたがほぼ満員になりました。この発表会を見て、その後第一回の定演のコンサートマスターとなった河村君始め何人かの人がこの同好会に興味をもって入ってくれ、ギターアンサンブルの基礎を基づいてくれたことは、今考えるとこの発表会も意義のあったことだと思えます。その他の活動としては、内堀君の通っていたギター教室の発表会に賛助出演したこととか、千葉工大の大学祭に出演したり、当時二年だった西部君のお父さんの会社のパーティーのアトラクションとして帝国ホテルで演奏したり結構短い期間に色々なことをやったと思えますし、皆な楽しんで和気合々とやって来たと思えます。それで三十九年に私は卒業したのですが、その次の年度の内堀君と次の河村君が都合で来られませんでしたので大泉君に当時の様子を話してもらいたいと思えます。

大泉 矢沢さんが卒業されてから一時立消になっていたのですが内堀さん、大畑さん、西部さん達がもう一度やろうではないかと、ピラを張り出したんですね。僕等はそれで入って来たのですが、その時、僕等の一級下の小田喜君達の代までの人達がバーと入って来て二十人ぐらいになったんです。その時、内堀さんは四年でしたので三年の西部さんが部長をやりました。その当時は会長と呼んでいました。初めての合宿は清里の大学の寮で行いました。僕らのときは初心者が多く上手な人と言えど河村さんとか、前の年から続けてやっていた人ぐらいでしたので定演なんてのはとても考えられませんでした。合宿の後には大学祭がありましたので、これを目標に練習して来ました。それで他の大学にも出てみようじゃないかとゆうことで、矢沢さんのところからの付き合いだっと思いましたが、千葉工大の大学祭に出ました。そのころ、リードギターを河村さんが弾いていたのですが、河村さんがとぎれると音がまったく出なくなってしまうことが数回ありました。演奏が終わった後で石を投げられるかもしれないからと、早々に引き上げました。(笑)その他に二、三回学校で演奏会を開きましたし、声がかかればどこへでも出かけて行きましたけれど、演奏内容はソロが中心で合奏を聞かせるまでには行きませんでした。

矢 沢 ソロといいますが、河村君あたりが弾いていたのですか。大泉 そうですね。その他大畑さんとか、大杉も結構弾いていましたし内堀さんもソロを弾いていました。当時の合奏は二重奏の練習曲を三部構成にしたようなもので、弾いている方は一生懸命でしたけれど、聞いている方はおもしろくなかったでしょうね。大泉 それで僕等の代になりました、僕等の代は最初から三人しかいなく、大杉氏が矢沢さんの代よりギターをやっていた上手だった

の点で、ベースは大泉さんの代で造られた。当時我々は二年生で演奏会の場を踏み、度胸も付いたので我々の代は第一回の定演に、ガキをかける時代でありました。それで我々は42年度の定演に焦点を絞りどの様に一年間クラブをリードしたらよいかを考えました。それで春期にはクラブ会員の意思の統合という点で千葉県富津で合宿を行い会員相互の意思の交流を計った。四月 七月は合宿で得た会員の意志を高揚させた。又演奏技術を向上させ演奏会までリードしていくことを考え、夏に集中的に技術向上を計る為合宿を茨城県日立市で約一週間行い、どうにかギター演奏技術をまとめました。

矢 沢 この時の合宿人員は何名ぐらいでしたか？

小田喜 約20名だったと思います。それで、会員数も41年に比べると多くなり本格的なギターアンサンブル合奏形式でトレーニングを行いました。又40、41年は指揮を山口先生に行ってもらったが、指揮を是非とも会員で行いたいと考え川口君に指揮法を勉強してもらいギターアンサンブルの指揮はどうしたらよいか勉強してもらいました。

矢 沢 そうするとクラブの会員で指揮を行ったのは川口君が最初ですね？

小田喜 そうです。それで定演曲目はポピュラー、クラシック各々5曲(ラ・クンバルシター、マカレナの乙女etc)、(ソル・ソナタop15、J.S.バッハ・エコー剣の舞)でした。(追)定演は新宿厚生年金ホール(小ホール)で行いました。

矢 沢 剣の舞はスピードが速いので大変だったでしょう？

小田喜 そうです。しかしギターで表現出来ればと考えましたのでそれほど難しくはなかったと思います。定演で目新しい点はポピュラーにてギターだけでは音量、音域的に難しいのでパーカッション

だが、色々都合が有り出席出来なかった。したが僕と菅沼でいたい行いました。だが二人で出来るわけはなく、四年生から一年生まで全員にうごいてもらった。

僕等はマネジ、会計しか行えず四年生の西部さんに部長を行ってもらいました。それで、明年河村さん達が卒業するに当り先輩達のギターテクニクをそのまま世に出さずして卒業させるにはもったいないと考え、是非とも定演を行いたいと考えました。しかしお金も無いし、会場も無いしどうやっていいかわからず、ただガタガタと動きました。それで、お金を持っている人から借金をし、その予算内で会場費、ベースを購入しました。それで定演の券を売ったお金を返してもらったが結局ほとんど返してもらえなかった。(全員笑声アハハハ)

その時の不足分は先輩に援助してもらいどうにか行った。それで第一回定演は全電通会館(御茶ノ水)の四〇〇人収容の所で行ったが我々だけで行うといってもレパートリが無いしとにかく三時間もたせるだけの曲目も無いしソロを行うにもそこまで時間がたないと考え跡見学園のマンドリンクラブに賛助出演をもらうことにした。又、ギターソロは矢沢さんと山口先生(当時の先生)に行ってもらいました。その時の評価は跡見のマンドリンはすごかった(全員笑声アハハハ)、圧倒的でありとかく我々は25名、跡見は約60名ぐらいいて圧倒された。マンドリンの音量はものすごくすべたにたいし圧倒されてしまったがどうにか第一回目の演奏会をこなしたという事で次の代の小田喜君へ引き継いだ。

矢 沢 以上が第一回の定演ということですね。

矢 沢 それでは次四十二年度小田喜君の代を紹介して下さい。

小田喜 我々四十二年度は六名の幹部で行いました。ギター演奏

を出す為ベース、コンガ、マラガスなどを試行で採用してみました。ポピュラーでパーカッションをどうするかということでもベース担当者にはベースを勉強してもらいコンガ、マラガス担当者はそれなりに勉強してもらい又他のクラブの人達の手を借りたりした。この調整などが大変だった。

矢 沢 たしかウエスタンジャズクラブの人達に教えてもらったと思いますか？

小田喜 そうです。指導してもらいました。

矢 沢 クラブの中は和気あいあいという感じでしたか？

小田喜 そうですね。当時女性2名の会員がいましたよ。(一瞬まわりがザワメキ立った)結局我々の時代は41年のベースにチェック肉付をしたということです。

それで我々は43年度の人達に期待したことは今まで同好会であったが、運営費が問題で各自負担が多く、これをどうにかして学友会に申請して部に昇格させ援助をもらうことでした。これを機会により発展させてもらうことを43年度の幹部に引き継いだわけです。矢 沢 それで43年度の高松君へ引き継いだわけですね。

では次に四十三年度卒業の高松君をお願いします。

高松 前年度の小田喜さん達の代の学友会への働きかけの成果があつて我々の代の五月か六月にクラブへ昇格しました。十万円ぐらいだったでしょうが部費があてがわれました。その事によって別にクラブ内がどう変わったというような事はなかったんですが、あのギターブームの頂点の年だったらしく新入生がものすごく入部してきました。60人以上いたと思います。我々が入部した時は音階も知らない連中がほとんどでしたが、この新入生の中にはギターを相当弾く人がいて我々三年が恥をかいたりしました。この人数がふえた

為合宿は観光バスを貸り切つて尾瀬戸倉へ行きました。この時クラブには女子が三人いてそのうち一年生の二人が合宿に来ましたし苦勞話ししかのこつていないんですがね(笑)。この合宿は禁酒と水泳禁止という規則があつたんですが、我々のまとまりもちょっと薄かつたせいもあつてこれが守られなくて、近くの川で泳いで堂々と海パンを物干しにぶらさげてあつたり、そばの喫茶店に行つて密かに酒を飲む者がたりしました。三日目ぐらいにこの規則が徹底されてからはこういう事はなくなつたんですが、このうつぶんがコンパではらされたみたいになつて、一年生のほとんどがベロンベロン、あつちでゲゲエ、こつちでゲゲエ、二人の女子は青くなつて奥の部屋へ退散という一幕もあつたりしてすぎましい一夜でした。流石に次の日の帰りのバスの中では前の晩とはうって変り皆静かでした。

その後武蔵野女子大の文化祭や錦祭に出演したりして定演に向うわけですが、その練習がずいぶん厳しかつたと思います。でも前に座わつてゐる人達(四十六年以後卒業)に較べるとずっと楽だつたんですがね。練習終つて麻雀する時間がありましたから。

定演は砂防会館で行ないました。人数が多くて人もを集める技両も、四部全部を部員で演奏する技両もなくて、当時指導をしていただいていた山口先生とOBの矢沢さん、河村さんにワンステージもつてもらいました。曲の内容としてはクラシックが中心でポピュラーといつてもタンゴ、ラテンでしめられていました。

我々のいた三年間というのは色々な面で変化が激しかつたと思います。一年生の時の少人数のなごやかという感じの合奏、二年生の時の一転して厳しくなつた練習、三年生の時の大所帯と悪戦苦闘して成つた定演、これらを考えると定演の為のクラブなんだろうかと

りますかねー。あの南明座という映画館は もうつぶれましたああそうですか。あそこへも何回か通つて帰りに只で映画を見たりして(笑)。結局広告は取れなかつたんですがね。

矢 沢 四十五年度の野島君が欠席の為、桑原君と野本君に話をお願い致します。

桑 原 彼らの時に電大における学園紛争が頂点に達してロック・アウトが続ぎ、練習場の確保に苦勞したようだね。

野 本 十月最初だつたと思いますが、練習の再開に當つて討論会を開いて、立看板を出したり、又一年生の面接を行つたりして、今思うとずい分、気を遣かつていたと思います。

桑 原 それから前期に演奏会を開いたのも彼らではなかつたかな。野 本 そうです。新宿厚生年金小ホールでウェルフェアショーと題してチャリティーを行つています。たしか、うちのマンドリンとか、赤十字奉仕団が出演しています。その時、二十数万の黒字分を何故へ寄付した事を覚えていません。

桑 原 定演は九段会館だつたな。ずいぶん広い所でやつた事を記憶しているよ。ステージ構成も変えたなあー。

野 本 そうですね。あの時にドラムを導入しているんですよ。部会の時三年生幹部から理由を説明され、金を集めました。おそらく、その理由というのは、前期に関東ギター連盟演奏会(文京)を二、三年で聞きに行つてゐるんです。その時法政のギターアンサンブルを聞いて、目指すは……、それでギター合奏のダイナミックな表現とかに関連した理由だつたと思います。私の記憶と想像も合んでいますけれど。

矢 沢 その時、野島君達から打楽器を購入するのでOB会として寄付をしてほしいとの話があつて、その話がきっかけでOB会とゆ

いう疑問が頭の奥にあつたのも否めない事だと思ひます。そしてその次大変だつたのが桑原君達でした。

矢 沢 ではその四十四年度卒業の桑原君どうぞ。

桑 原 我々の代は人数がやはり非常に多くレギュラーだけで四・五十名新らしく入つてきたフレッシュマンをいれると六・七十名という大所帯になりました。人数面では最盛期ですな(笑)。

定演に関しては我々の時には流れが出来上がつていて多少のごたごたがありました。一年間定演を大前提として頑張つていこうという事が決まりました。ここで一つの大きな問題がありその解決策が我々のハイライトである、レギュラーメンバーをクラシックとポピュラーに分ける事でした。クラブ活動としては思わしい方向じゃないんですけど、どうしても舞台にのりきれないという事で四月の初めにこれが決まりました。この事によつて両メンバーの心ならずもの対立もみられクラブ内の和がみだれ勝ちになりましたが、クラシックメンバーがポピュラー曲のリズムセクションを担当するといふ利点が生じて多くのリズム楽器 クラベスとかギロ等 が加えられました。ドラマは僕達の次の代からだつたと思ひますが。定演は千代田公会堂で行ないました。

矢 沢 人数は何人ぐらい入れましたか。

桑 原 七・八百人だつたと思います。小じんまりしてて舞台もうつわも当時としては手頃だつたと思います。なかなかきれいな所でした。

矢 沢 何かプログラムの広告を取るのに非常に苦勞したとかいう事ですか。

桑 原 えー。個人的にはいろいろあつたんですが(笑)。あつちへ行つたりこつちへ行つたりでよく映画館にも行きました。今もあ

うはつきりした形が出来たのもこの頃ですね。

桑 原 順不同になるけれど、9チャンネルミクシングアンプも製作したな。

野 本 そうです。それから話は変わりますが、あの時代で忘れてはならない事の一つに、創立以来、山口先生に指導してもらつてきました。都合によりやめられた事を覚えてゐるんですが。

矢 沢 野島君達からもOBに話がありました。山口先生も仕事に忙しく、又、皆も自力でできるとゆう自覚があり、これも一つの脱皮とゆうか自然な過程と考えられるかもしれせんね。

野 本 金指先生との出会いはどうだつたんですか。

矢 沢 野島君達の話しだと、金指先生が電大の演奏に非常に興味を示され、手伝つてみたいという事で迎え入れられたようですね。次に、長縄君欠席の為四十八年度活動に関して野本君にお願いしま

す。

野 本 私、幹部でない為内部的に活動を捕える事は出来ませんが知つてゐるかぎり話したいと思ひます。おそらく、あの代は自分達のやりたい事を全てやつたと思ひます。主な活動としましては五大学ギター研究発表会を始めとして、第一回ジョイント・コンサートを第一生命ホールで千葉工大と行い、又、八月の合宿では伊豆下田で地方公演を行ない、第一回のレコーディング(定演)までやつてしまつたんです。

矢 沢 地方公演の成果はありましたか。

野 本 詳しくは覚えておりませんが、伊豆は金指先生の出身地でしたので車で町中を宣伝したので、昼の部はさほど入らなかつたが夜の部は可成りお客さんが入つたと記憶しています。又、地方新聞に写真入りで演奏会の記事がのつたので皆んなで喜んだものです。

矢 沢 それは画期的な事でした。

野 本 それから定期演奏会ですが、日本青年館ホールで行ったんですが前年のステージ構成と変えまして、フレッシュマンのステージが第一部で、第二部、第三部はクラシック、ポピュラーで、ここまでは前年度と同じで……。

石 井 フレッシュマンはなかったよ。

野 本 失礼、間違えました。その年にフレッシュマンのステージをやめて、クラシック、ポピュラー、フルメンパー、オールメンパーとゆう形を作ったんです。

小田喜 フルメンとオールメンはどうゆうふうになるの。

野 本 フルメンは二年生以上レギュラー全員で、オールメンは一年を含めた部員全員です。

大泉 昔は全部オールメンだったな。

全員 爆笑

石 井 その時は一年だったんです。我々はフレッシュマンのステージがあるものと思つて練習していて、定演の一ヶ月ぐらい前になつて、今年はフレッシュマンのステージがないと聞かされて三年生の所へもんくを言つてもめた事がありました。それが転じてオールメンが出来たと思います。

野 本 第三部ステージの途中から入ってきたね。

石 井 一番最後の曲（スベイン組曲）の時です。それからクラシックのステージでまだ日本にそれほど譜面がなかった時にアラン・フュヌをやりました。

矢 沢 だれが編曲したのですか。

石 井 金指先生です。長縄さんと高野さんの二人でソロの部分を受けもつて……。

矢 沢 野島君、長縄君の時代から我々OBも安心して、楽しんで聞いていられました。それまではいつ間違えるか心配で手に汗を握る感じで聞いていたものです。

いよいよ野本君の時代ですね。

野 本 我々の時は、二年生の時から文京公会堂で定演をやれたらなあという希望がありました。もちろんやれるかやれないかは別としてです。ではどうしたら出来るのか、とゆうことから始まったんです。きれいな言葉で言うなら「可能性の追求」とゆうことになりそうです。そして定演に若さの発散させる場として捕えました。金指先生に関しては、いろいろな意見がありました。結論として先生からは得るものがないあるんではないかとゆうことで、指導者として迎え入れ、一年間先生と一諸に活動しました。年間の活動は地方公演をやめたほかはほとんど前年度と同じですが、反省点は前年度以上の、より良いものを目指しました。

矢 沢 具体的には？

野 本 たとえばジョイントコンサートに関してなんですが、ジョイントとゆうからには合同ステージで演奏したいので、合宿地を千葉工大と同じところにして合同練習を行ったり、又、定演では尺八を入れたり、十弦ギターの導入、又、オリジナル楽器（詳細は略）の製作導入と我々なりに工夫しました。

矢 沢 第三部の「かがり火」ですか、尺八を入れたのは、独創的で僕もそれを聞いてなかなか良かったと思えました。

野 本 ありがとうございます。

矢 沢 チケットのさばきも大変だったでしょう。

野 本 ええ、前年より倍さばかなくてはならないから、体育会、学研、自治会、新聞委員会、他大学と組織を通じてさばくようにし

ました。もちろん、OB会もです。但し、OB会は人数的には期待しなかったが金銭的にはだいぶ期待しました。最後に定演と同じ、それ以上に思出深かつたことは、七月に千葉県の上志津小学校で行つた教育指導演奏会なんです。榎原さんから話があつたんですが、ジョイントが終つてすぐの話だったので練習する時間もなかつたし、二年生はきついだらうと思つて三年幹部だけで行きました。

小学生四、五、六年生が対象だったのでジョイントのレパートリその他に小学生唱歌も持つていきましたので、まちがえらるとたちどころに「おにいちゃんまちがえた」と言われてしまい、彼等の一喜一憂を肌で感じたものです。柞山なんかは彼らのアイドルになつちゃつて終つてからみんなサイン責めにあつて非常に感激したものです。

全員 爆笑 サイン責めにあつたのは今までにそれだけじゃないかな。

野 本 ハンカチやシャツにまでサインをさせられました。その時の我々の反省なんです。やはり二年生もつれてくるべきだつたと思ひました。この子供達が大きくなつて電大ギターアンサンブルに入部してくれたらいいなあなんて思つてとにかく話しきれないくらい思い出があります。練習は苦しかったが、今思うと楽しい一年間でした。

矢 沢 次に四十八年度の石井君たちの代になり、我々がクラブを作つた三十八年度からちょうど十周年に当たるわけですね。

石 井 思い出せるのは、やりたいことがほとんどできなかったという事で、幹部のときはあまりいい思い出はないんですけども。金指先生の問題で火種を作つたのは、我々の代ではないかと思つてもうすけれども、やはり、やり方というか、とらえ方の問題で野本さんたちの代のように受け入れられなかつたんだと思つてですね。

結局、自分たちでやりたいことを進めて行くうちに先生が置きざりにされたという事で、わだかまりができてしまつたと思つてんです。

あとは、パークションが入つて四年目になるんですが、本格的になつたのは我々の時からだと思ひます。好きな人がいたせいか、充実してきたと思ひます。

矢 沢 このごろは、電大の演奏会のクライマックスでパークションがずいぶん目立ちますが、石井君のところからそうなつてきたのか。他に特に資金面とか何か苦労したことがありますか。

石 井 フルメンで結局、奈良になつたんですが、これも僕が一番やりたいと思つたのは日本狂詩曲という曲で、どうしてもやろうと作曲者の所まで夏の暑い時に行つたのですが、楽譜を出版していたところが戦火で焼けてなくなつてしまい、今は出版されていないということでした。

矢 沢 その曲は始めはどこで聞いたんですか。

石 井 東京文化会館の音楽資料室があるんですが、そこへ二年のころ良く出かけて音楽を聞いていたんですが、ある日、たまには日本の曲を聞いてみようと思ったのがこの曲で、一度聞いたときに、非常に感動しまして、こんな作品があるんだなと思つたんです。

結局、作曲者に譜面は借してもらえなかつたんです。

この楽譜は、文化会館の音楽資料室にもあつたのですが、もうぼろぼろだつたんです。それがわざわいして、写譜している途中で装丁しなおすという事で見られなくなつて、結局間に合わなくなつて奈良になつたんです。

矢 沢 それが実現したのは小田川君たちのときだったんですね。

石 井 ええ。その前、一年前ですが手島から相談を受けたときにやはり、伊福部先生の交響譚詩という曲があつて、今年もそれをや

るらしいんですけれども、レコードの裏面になっていまして、作曲者の所へ行つたときも、日本狂詩曲はギターでやるのは難しいといわれて、こつちならできるんじゃないかと、推めてくれたんです。これだったらオーケストラの譜面も市販されているんですね。それで聞いているうちに、そつちもいいなと思つて、ちよつと変な話ですけどね。それだったらできるなと思つて、編曲したという訳です。

矢 沢 だいぶ苦労したですか。どのくらいかかったですか。

石 井 一週間ぐらいです。

それから、小田川君のときに、日本狂詩曲の譜面を持ってきたんですね。僕もやりたかつたし、やろうということになって、だいぶ苦労しましたけれどやりました。

矢 沢 そうですか、それはまた、小田川君たちの時にでも話して下さい。じゃ、次に岡田君の代ですね。

岡 田 我々は一年のころから新しい事をよくやつたんですが、二年でも、前期の試験が終わった九月の末の休みに、代々木の勤労青年センターで、一、二年研修会という合宿のようなことをやりました。それから、二年のころから、マネージャーをやつた猪俣が是非自分の故郷の長岡で地方公演をやりたいといひ出したんです。以前下田で地方公演をやつたこともあつたといひので、やつてみようということになったんです。そこで幹部とよくいってない先生に相談に行つて、先生の後輩の畑山先生を紹介してもらひ、十月に猪俣と二人で長岡へ行き合つてきました。そしたら、とてもいい先生で、演奏もすばらしかつたので、この先生を入れてやろうじゃないかといひことになったんです。

それからいろいろとありまして、幹部になるのですが、我々は先生にもうつかなくてもいいじゃないかとほぼ全員一致で考えたんです。に進まなかつたので、自分たちの思い通りにやりたいと思つたんです。

矢 沢 クラブの運営と指導者としての先生の立場とがあまり、ハッキリと互に理解されていなかつた所に問題があつたといひことですね。

矢 沢 それでは次に五十年年度卒の小田川君達の代の活動について話して下さい。

小田川 定演が終わりましてすぐに幹部交代がありました。その年の活動方針を決めるにあたり、今まで通り金指先生に指導を願うかどうかがまず問題でしたので、先輩の意見、クラブの実情、自分達の意見を総合して、先生の手を離れ自分達の力でクラブを運営していくといひことで始まりまして。具体的には編曲は今では当然のようになつていますが、自分達で手わけをして行つといひもので、足らない所は四年生、OBにお願ひするといひことです。だから私達の代より自分達の弾く曲は自分達の手でといひ流れができたわけですね。

そのように活動が始まりまして活動、曲目などかなり自分達独自のものをやろうと心がけました。しかし何ごとにも厳しく、といひことではどの代にも負けなかつたのではないかと自負しています。新入生は二十名位入りました。前期のコンサートは四大学発表会がありまして、このあたりからOB会と現役との間にクラブの運営に關して、具体的には昨年までの金指先生の問題でトラブルがエスカレートしてきたわけですね。

矢 沢 とところで、前年度まで続いてきたジョイントコンサートが、OB会と先生との問題で中止された訳ですね。

小田川 はい、女子栄養大学と行つて予定で、会場とかも決まつてあ

す。ところが、我々は長岡公演を控えて、先生を間に入れていろいろと紹介してもらつたりしたんで、今さら先生と縁を切るのはまづいのではないかといひことになり、四年生にも相談したんですが、やはりそれはまづいといひことになりまして、一年間は自分たちなりにやつてみてはどうかといひことになったんです。

しかし、やつて行くうちに、音楽面では指揮者が合わないといひので途中でやめようといひ意見もあつたんですが、定演までやつてくれといひことでやつたんです。

また、我々は演奏会が多くて、一、二年生からだいぶ不満があつたんですが。まず春のオリエンテーションに始まり、四十六年度の小林さんから話のあつた電大の同窓会でのアトラクションとしての出演、そして、四大学、千葉工大との最後になつてしまつたジョイントコンサート、夏には長岡での地方公演、錦祭の前か後かに、手島の友人の知人で渡辺先生という方がいたんですが、その先生の横須賀公演への賛助出演、最後に定期演奏会と行つたんです。

地方公演のときなんですが、二部構成で、一部が小中学生を対象とした、音楽の講習会といひかそういう目的とリハーサルを兼ねて行い、夜は金を取つてやろうじゃないかといひことでやつたんですが。小中学生が以外に集まらず、幕が開いたら猪俣の親戚が前にぼつりといひだけで、非常に寂しい思ひをしました。夜はそれに反して、満員となり、イスが足らなくなる程でした。

定演が終つてから、次期へ引き継ぐときに例の先生との問題が出てきたんです。

矢 沢 その原因はどういひことだつたんですか。

岡 田 我々は前の代から先生とのトラブルについて聞いていたんですが、自分たちなりにやつてみたら、先生を立てていると話がスム

とはチケットを配るだけになつていました。結局、OB会と話し合ひがつかず、先生と相手校の関係もあり、中止せざるを得ませんでした。この頃からOB会とは完全に断絶してしまいました。OB会が役員に対して退部勧告を出したり、部室の看板を持ち去つたりしたのも、この時期でした。そういう状態の後期の活動に入りました。

矢 沢 定演は文京公会堂でしたね。その時の事を。

小田川 はい、編入楽器としてピブラホーンを導入しました。パーカッションも充実してソロなども他大学にもひけをとらなくなつて来たと思ひます。そして編曲は四年生の塚田さん、手島さんにもだいぶ手伝つていただき、忘れる事が出来ないのが、新OBの石井さんに日本狂詩曲を編曲していただいたといひ事です。この曲はスコアが出版されてないのでかなり手に入れるのに苦労しました。そして作曲者である伊福部先生のお宅にお邪魔して色々お話を聞かせていただきました。世界でもめづらしいルネッサンスリュートを弾かせていただいたのが強く印象に残つております。そして定演当日のリハーサルに奥様と一諸に来て下さり、楽器が全部入つていなかったのですけれども、拍手して下さつたのをその時の部員一同大喜びしました。その時の編入楽器はオーボエ、クラリネット、琴、尺八、フルート、ピッコロ、大太鼓、そして祭りに使う大太鼓が入りました。そしてラテンも大変に乗つた演奏が出来、無事に定演を終えたわけですね。

矢 沢 それでは次に五十一年年度卒業の玉野君に第一回の定演にいたるまでの過程を話してもらひましょう。

玉 野 我々は前年の幹部の方々が、金指先生やOB会とのトラブル等で、ジョイントコンサートを中止せざるを得なくなつてしまつ

た事情等を見ながら、二年生の時の定演を終えました。そして、幹部交代をして、四大学ギター合同研究発表会、ジョイントコンサート、定演、と三つのステージを持つ事を基本に年間活動を進めるという方針を決めました。差し当たってジョイントの相手校捜しから始めたんですが、前年度のジョイントが中止になってしまった事等で他校とのつながりがなく、先輩方の力を借りまして第四回まで、やってきた千葉工大、前年度の女子栄養大学等に話を持ち掛けたんですが、相手校の都合や昨年度の先生やOB会とのトラブルが尾を引きましてそれ以上の話は進められませんでした。そんな事をしてる間に、東海大学のギター音楽研究部がジョイントの相手を捜しているという情報を偶然にも得ましてコンタクトを取って話を進めて行き合同でコンサートを行いましたと言う運びになり、この間一時は諦めかけていましたが、前期活動の大きな目標に向って活動を始めました。千葉県御宿での春合宿から始まり、四月には二十数名のフレッシュメンを迎え、二年生を中心とした一年生の指導もスタートし、合同ハイキング、そして五月に中央大学、成城大学と三大学ギター合同研究発表会を七一〇二大教室で催しジョイントへの練習にも次第に熱が入って来て夜遅くまでの練習が続きました。例年の事ながら下級生からの不満も出て来ましたが、特に大きなトラブルもなく七月五日虎の門ホールでのステージを終えました。合同のラテンステージでは客席からの拍手等も加わり両校共非常に満足したコンサートでした。そして夏合宿から定演に向って練習に入りました。例に依ってステージ構成は四部構成で、企画、選曲を行います。その過程で今までの概念に囚われないで新しい物を取り入れたりマンネリ化している事は今までとは異なったイメージにして行こうという方針を出しました。そして三部ステージでは金管楽器を加

感を感じました。

矢 沢 作曲者としていろいろあったと思いますがその点はどうですか。

石 井 自分としてはすこし逃げてしまったような気がします。たとえば徹夜して随分書いたつもりなんですけど翌日もう一度見直してみるととなあーんだこれっというのが多かったですね。

小田川 しかし蜂谷たちの時代は恵まれていたな。

蜂 谷 本場にそう思います。OBの石井さん、塚田さん、手島さん、小田川さんなどに編曲をして頂いたり、下級生からは何の不満も言われなかったし、四年生にもほとんど言われませんでしたし、本場に一年間マイペースで幹部を送れたと思います。

(五十二年度の月田君の分は蜂谷君が取材してくれました。)

月 田 私たちの代は蜂谷さん達の代とうって変って去年の勢力があった四年生に引継がれ(本場は私たちのことを思っていることとは思いますが)二年生は言いたい放題、これらのアンチ幹部派の板バサミで上へ下への幹部時代でしたよ。でも私たちの幹部時代を振り返って見るといままでと異った演奏会をやるうと結束していたと思います。三部ステージにしても日本の旋律を離なれ脇山さんの協力を得て『展覧会の絵』を演奏したり、ラテンにおいては自慢のパーカーションに磨きをかけてつスマートなラテンステージを作っています。いままでと異なった演奏会を心がけてきたんです。そういう意味でいいにつけ悪いにつけ自分たちの演奏会ができたと思うんです。でもよく引継がれてくれましたね蜂谷さん。

えたり新しくシンセサイザーを購入して面白い表現を使ったり、それに伴って音響面の充実を計り、某放送局のミキシングスタッフに音響を依頼しました。他にもプログラムやチケットのデザインを、新しいイメージにしたり、プログラムの構成で全部員の似顔絵を載せる等の試みをしました。しかしこれらの新しい試みや方針の中には上級生、下級生の反発を買う事も多くあり学年間のトラブルや、失敗も何回もあり、幹部の間でもそれに関する悩みが一番大きな事でもありました。しかし最終的には四年生のバックアップ、二年生の協力、手島さん、塚田さんそして石井さん等のOBの方々の援助により文京公会堂での定期演奏会も無事に終える事が出来ました。

矢 沢 それでは五十一年度の報告を蜂谷君お願いします。

蜂 谷 僕たちの活動も二年の時からは始まりました。東海大とのジョイントをやるうという事が決まりましたして文京公会堂も取りました。東海大の都合で中止となりました。そのあと千葉工大などいろいろあたりましたがなかなか見つからずやつと十二月に女子栄養大学から快い返事をもらいました。ジョイントが決まりましたからは、一年間の計画も順調に進んでいきました。第三部では是非『日本の旋律』をやるうと思っていた矢先OBの石井さんから編曲のみならず作曲もやってみたいという声がかかりまして幹部一同喜んだものでした。

矢 沢 ここで始めてオリジナルの話がでた訳ですね。

蜂 谷 そうです。そしてジョイントも盛大に行ない夏合宿、練習を通して曲の方も急ピッチに仕上がって来ました。しかしオリジナルの方で石井さんが来られると大変です。自分の心に描いたものと違うという事でせつかく暗符したフレーズが全く新しいものに変わる事もありましたが石井さんも含めてみんな努力したことにも充実

「OB会の今後のあり方」

矢 沢 これで十五年のギターアンサンブルの歩みをざっとたどつて来たわけですが、それではこれまで十五年間のギターアンサンブルの歴史の中を歩んで来た我々OBが今後どのような活動をして行つたらよいか。もちろん現役のクラブとの関連なしでは考えられませんが、皆さんに色々意見を出してもらい、一諸に考えてみたいと思います。会則にも載っておりますがOB会の目的としては会員相互の親睦を計ると共に、クラブの発展、向上に協力するとゆことですが、クラブへの援助ということについては話し合ってみたいと思います。まず金銭的な面ですが、定演の入場券もこのところずっと値上げしてないということですが、クラブのやりくりはどうですか。

玉 野 現在定演の予算が百万円を越えておりますが、それだけチケットを売ればよいのですが実際は練習が忙しくて売ることが出来ず幹部は自己負担が多くなっております。そのへんがクラブをやめたいという原因にもなっているようです。

矢 沢 親元から仕送ってもらっている状態で金銭的負担が大きいということとはクラブ活動を続けるのに大きな障害になっているようですね。現在はOBに券を回すという事はしてないのですか。

大 泉 我々の時は最初だったこともありましたがOBにお願いして人数の方はあまり期待出来ませんでした。ずいぶん券を買ってもらいました。

野 本 桑原さんの代ぐらいいまでOBにたのんでいたのですが、野鳥さんの代からは部員数が増えたので現役だけでさばけたのですが、現在は部員数の割にチケットの割合が多くて大変だと思いま

す。

石井 卒業して二年ぐらいの人には今でもお願いしているようですが、それ以上になると何か遠慮があるんじゃないでしょうか。

矢沢 そんな遠慮することはないと思いますよ。OB全員クラブのことを心配する気持は同じだと思います。

岡田 券を買ってやるだけならいいのですが、演奏会に連れてゆくと何となくおかしいのではないのでしょうか。

矢沢 最初の頃に比べると演奏も大変うまくなつて来たし、見に来てもらっても結構楽しんでると思えますよ。それだけ実力があるのですから一般の人にも大いに来てもらいたいですね。

金銭的な援助についてはOB一同出来るだけ協力したいと思えます。そこでもう一つの技術的援助についてさきほどから石井君の編曲や作曲についての話題がだいぶ出ましたが、OBが編曲とか、演奏技術の指導がどの程度可能か話し合ってもらいたいと思えます。

石井君はどのように考えますか。

石井 卒業して間をおいてしまうとむずかしくなるんじゃないでしょうか。小田川君達にはかなりきつい事も言いましたが、蜂谷君達には何々言いくくって、それ的を得た事でしたらよいのですが、

的はずれな事を言つて皆をまどわしたりしないかという心配が先に立つてしまい、技術的な援助というのはある程度限界があると思えます。OBだからというのではなく、もつと個人的なつながりから

発展して色々話し合えるようになることが必要だと思います。そうならば、こちらもしょ言いたい事が言えるし、相手も自分の言いたい事を正しく受けとつてくれると思います。

矢沢 じつは、この八月に北軽井沢で現役の合宿がありました、桑原君と岡田君と私の三人で様子を見に行つたのですが、ちょうど

合宿の中日で夕食が終つてから合奏の練習を見たのですが、一年生は合奏をやりだして間もなかったのでしょうか、大分苦勞していま

した。そこで二、三気付いた点で基礎的なアポヤンドの弾き方とか、ギターの持ち方、姿勢等々を注意してあげたら、とてもよろこばれました。練習が終つてから二、三年生が我々の部屋に来て話し込んで

行つたのですが、一年生の指導について聞いて見たら、フレッシュマン・リーダーが一人昼休みに教えるだけで、練習に追われ、十分に

出来ないと言つていましたので、それなら四年生に手伝ってもらつたらどうかと言つたら、来年からそのようにするような事を言つて

ました。修得した技術を後輩に残して行くことはクラブの発展のためにも大切な事だと思います。もちろん、スムーズに行う

ためには日ごろからの付合が大事ですから、新OBは出来るだけ様子を

見に行つてやり、我々も偶には合宿など参加して親睦を深めることも大事だと思います。

野本 うちのクラブは合奏が主体だからあまりソロの練習はやりませんでしたが、ソロはギターの基本ですから、二ヶ月か三ヶ月に一度、プロの先生を呼んでソロの演奏を聞かせてもらいました

が、私などは出来ませんが、OBの中でソロのうまい人、たとえば矢沢さんが行つて現役に聞かせてやるなんてのはどうですか。

矢沢 このごろは三ヶ月か、半年に一回弾くだけで皆の模範なんじゃないかと思つてますね。その為にはこれから皆で少し練習をしなければなりませんね。(笑)

石井 技術的にどうこうというのではなくて、交流という型で持つていた方がいいですね。私も偶にギターをひっぱり出すことがあるんですが、前に弾けた曲が今では弾けなくなつていつもがっかりするんです。技術的なお手本というのは無理ですね。

高松 フレッシュマンや、二年生程度なら自分もやればそこまで出来るんだという目標が出来るんじゃないでしょうか。三、四年生の前では大きな顔は出来 せんけど。(笑)

矢沢 この前の親睦会は大泉君の企画で山中湖の近くの奥道志でやりましたが、その時、ギター持つていって簡単な合奏曲を弾いたんですが結構みんな楽しんでましたね。OB会も時々機会を見つけて練習したらいいですね。

「十五周年記念事業について」

矢沢 それでは話しが変りますけれど、最初に述べた通り、OBも満十五年になりましたので、これを機会に何か現役に記念になるようなことをしてあげられないかと思つていますがいかがでしょうか。

小田川 現役に何かプレゼントをしようということですね。

矢沢 そうです。

小田川 この前、ステージマートの話が出たことがありますが、それなんかどうでしょうか。

矢沢 そうですね。この前、現役から話を聞いたところ、今使っているステージコートも大部いたんでいて、着数も少なくなつてい

るので、他のクラブから借りて演奏会に出ているということを知りました。使っているステージコートはいつごろ使つたのですか。

野本 黒と黄色のがあつたのですが、今でも使っていますか。

小田川 黒はぼろぼろになつて今は使っていません。

高松 たしかクリーム色のコートを我々の代で作りましたね。

野本 ええ、それを長縄さんの代に補充したのが今あるステージコートです。

合宿の練習を見たのですが、一年生は合奏をやりだして間もなかったのでしょうか、大分苦勞していま

した。そこで二、三気付いた点で基礎的なアポヤンドの弾き方とか、ギターの持ち方、姿勢等々を注意してあげたら、とてもよろこばれました。練習が終つてから二、三年生が我々の部屋に来て話し込んで

行つたのですが、一年生の指導について聞いて見たら、フレッシュマン・リーダーが一人昼休みに教えるだけで、練習に追われ、十分に

出来ないと言つていましたので、それなら四年生に手伝ってもらつたらどうかと言つたら、来年からそのようにするような事を言つて

ました。修得した技術を後輩に残して行くことはクラブの発展のためにも大切な事だと思います。もちろん、スムーズに行う

ためには日ごろからの付合が大事ですから、新OBは出来るだけ様子を

見に行つてやり、我々も偶には合宿など参加して親睦を深めることも大事だと思います。

野本 うちのクラブは合奏が主体だからあまりソロの練習はやりませんでしたが、ソロはギターの基本ですから、二ヶ月か三ヶ月に一度、プロの先生を呼んでソロの演奏を聞かせてもらいました

が、私などは出来ませんが、OBの中でソロのうまい人、たとえば矢沢さんが行つて現役に聞かせてやるなんてのはどうですか。

矢沢 このごろは三ヶ月か、半年に一回弾くだけで皆の模範なんじゃないかと思つてますね。その為にはこれから皆で少し練習をしなければなりませんね。(笑)

石井 技術的にどうこうというのではなくて、交流という型で持つていた方がいいですね。私も偶にギターをひっぱり出すことがあるんですが、前に弾けた曲が今では弾けなくなつていつもがっかりするんです。技術的なお手本というのは無理ですね。

高松 フレッシュマンや、二年生程度なら自分もやればそこまで出来るんだという目標が出来るんじゃないでしょうか。三、四年生の前では大きな顔は出来 せんけど。(笑)

矢沢 この前の親睦会は大泉君の企画で山中湖の近くの奥道志でやりましたが、その時、ギター持つていって簡単な合奏曲を弾いたんですが結構みんな楽しんでましたね。OB会も時々機会を見つけて練習したらいいですね。

「十五周年記念事業について」

矢沢 それでは話しが変りますけれど、最初に述べた通り、OBも満十五年になりましたので、これを機会に何か現役に記念になるようなことをしてあげられないかと思つていますがいかがでしょうか。

小田川 現役に何かプレゼントをしようということですね。

矢沢 そうです。

小田川 この前、ステージマートの話が出たことがありますが、それなんかどうでしょうか。

矢沢 そうですね。この前、現役から話を聞いたところ、今使っているステージコートも大部いたんでいて、着数も少なくなつてい

るので、他のクラブから借りて演奏会に出ているということを知りました。使っているステージコートはいつごろ使つたのですか。

野本 黒と黄色のがあつたのですが、今でも使っていますか。

小田川 黒はぼろぼろになつて今は使っていません。

高松 たしかクリーム色のコートを我々の代で作りましたね。

野本 ええ、それを長縄さんの代に補充したのが今あるステージコートです。

(矢沢 記)

◇ 近況報告 ◇

三十八年度卒 金坂 武彦

数人で発足したギター同好会が押しも押されぬ大クラブに成長を遂げ、大いに活躍されている姿は誠に頼もしい限りであります。まさに遊び同様に始めたのがほんの少し前に思われるこの頃ですが、早くも十五年を迎え、電大ギターアンサンブルのニュースが入るたびに、自分自身も学生時代に戻ったかの錯覚を覚え、教室の片角で練習したなつかしい記憶がはつきりと浮かんできます。

現在の部は大所帯ですから、それなりの厳しい面も多く、演奏技術の向上を目指していくのは苦勞も多いかと思いますが、一つのこと全員が一致団結して突き進んでいく。この姿は何にも増して美しい姿であり、又懐かしい思い出になることと思います。

小生も卒業して早くも十四年。半年前までは就職して以来ずっと鎌倉にいましたが転勤で名古屋に移りました。始めての場所で、又それなりの感懐もありますが、要はせまい日本、どこでも同じということですから。ましてや単一族ですから考えることも同一、特に述べることありません。ただその地方の風習など少しづつ異なるところもあり、名古屋人の氣質が最近になってわかってきたような気がします。といつても半年で偉そうなことは言えません。

ちようどギターを手にとることは容易であるけれど奥深く進むのは相当の練習が必要と同じようにまだまだこれから解ってくることも多いでしょう。

連絡先 愛知県尾張旭市平子町西一〇八

TEL 〇五六一五・四・四七四五

OB 十年

四十二年度卒 佐藤 実

先日、副会長の小田喜君より電話があり、OB会十五周年行事について打合せしたいとのことで、実に卒業後、十年目にして初めてOB会に出席しました。御無沙汰も十年ともなると、いささか引け目を感じますが、久々に旧友に会いたい気も強く、出かけた次第です。クラブの様子は会報や、定演その他の行事案内等で間接的に知る程度、三年程前、定演を聴きに、女房を連れて行きましたが、私が現役の頃とは段違いの出来にびっくり。とても先輩づらは出来かねる現役諸君の演奏でありました。私がクラブに入会したのは三十九年、同好会発足の翌年と記憶しますが、初めは練習といつても数人が思い思いに弾く程度の素朴なものでした。錦祭での演奏で、五号館の講堂で合奏した時は、他のパートの音が聞えず困惑したものです。最近ではギターとも御無沙汰で、たまに思い出して引っぱり出し、譜面をにらんで、つかえながら弾いていると、「この人、本当にギターをやっていたのかしら？」といった目で女房が私を見る始末、やはり十年のブランクは大きい、などと自分でなぐさめるといつたこの頃です。他のOB諸子は如何、会社に入った当初は、周囲の同僚の中でやはりギターに興味ある者とアパートに集まって弾いていたりしましたが、仕事の関係もあり、自然消滅となつてしまつたままです。ギターの面白さはソロにも無論ありますが、合奏の面白さは依然忘れられません。機会あれば、学生時代に戻つて合奏に興じたいと思つたりします。譜面に向つて懸命に弾いていた頃を思い出し、昔の仲間とまた一諸に合奏したいものです。OB会も発

足十五周年を迎える歴史をもつに至りましたが、これまでに会を発展させて下さつた方々に、不肖のOBとして申し訳なく思うと共に、この紙面を借りて御礼申し上げる次第です。

最近の出来事

四十三年度卒 輪島 藤夫

ユーザー電子工業株式会社勤務。コンピュータ(特にオフィスコンピュータと言われているもの)のハードウェアおよびファームウェアの開発・設計を行っております。

最近ほとんどギターは手にしておりません。ギターと言えば、イエスあるいはウエスモンゴメリー等のレコードを時々ステレオで聴くぐらいです。

さて今年の夏より社内バスケットボール同好会が発足し、早速入会しました。バスケットボールならば高校まで六年間はやっていたので多少の自信はありました。

ところが初日の練習よりその自信もどこへやら、頭で考えていることと身体とがほとんど一致せず、こんなはずではないと思いつながらランニングシュートやカットイン等で約二時間もの長い間しごかれてしまった。

やはり、思っていた通り、後遺症が三週間も続き、つくづく今までの運動不足を感じたものです。

追伸 現住所が変わりました。

石川県河北郡津幡町字庄へ一八

TEL 〇七六二八・八・四〇八四

四十四年度卒 桑原 芳一

皆さんこんにちは。御変わりありませんか。私もとても健康で、無事に今日までいたっております。ただ、まだ独身ですが。

さて、私の近況ですが、会社は自意、他意を含めて三度変わりました。職は二度変えて今日にいたつてます。今、給料をもらっている所は日本REIという会社で百%外資の会社です。まあ、ここまではいいのですが、規模が小さいことや、外資という事もあって、やりづらいことも多々あります。

趣味は、学生時代は麻雀しか思い出せませんが、あ、そうそうギターもありました。最近では趣味と実益を兼ねて海づりをやっています。果がかなりあると、親戚や近所の人に配ります。魚の価格の昨今は高いらしく、とても感謝されます。趣味は、あと、園芸、読書、音楽です。園芸というと、何んとなく、々々さくなるが、花の咲くのを今か今かと待ち、ようやく開花した時は、非常にうれしくなります。

この辺で終わりますが、卒業してから余りお顔を拝見していない方もありますが、折りがありましたら、是非、拝顔させて下さい。では失礼致します。

近況報告

四十五年度卒 竹内 克行

皆さん、こんにちは。OB会名簿を見て名前を知らない方がだいぶ多くなって来ていますので、先づ簡単な自己紹介をさせて頂きまします。小生は電大ギターアンサンブルを四十五年度に卒業して、現在、横浜に住居を構え、東芝アンベックスに勤めております。クラブに居た頃は、抜群な音楽センスと卓越したギター技術で定演などでは聴衆を魅了させたものです（知る人ぞ知る。）が、今はまったくその面影もなく、ギターを弾く余裕はなく、もっぱら仕事で譜面ならぬ図面を引いております。しかも先日、三才になる長男がギターをオモチャ代りにして、壊わしてしまいました。

しかし、六月頃だったと思いますが、山中湖畔にて催されたOB会に参加させて頂き、昔なつかしい顔ぶれにお会いし、学生気分に戻った様な錯覚を覚えました。大学を卒業してから七年半よくこんなに永く同じ会社に勤めたものだと思ながら感心します。我会社は、年功序列・無能力主義で、私の気風にびつたりなので、なかなかぬるま湯から出られません。

仕事内容は、端末、磁気テープ装置の技術設計を担当しておりますが、年がら年中トラブルに追われています。先輩、後輩の方々の中にも競争会社に勤めておられる人もある様ですので、せいぜいガンバリたいと思います。又、技術部に働く一方、労働組合の副執行委員長もやっております。日夜、働く者の生活上、労働条件の向上を目指して果敢に斗っております。「万国の労働者よ団結せよ」指がしい毎日を送っておりますが、今回の投稿を機に、これからは

とあふれてしまおう。

テニスはお金をかけなくとも、楽しめるし、歳を取っても出来るスポーツです。ギター部テニスクラブを作りませんか。当部には、指導員の資格を持った矢沢氏もいらしゃるので初めての人もすぐうまくなり、テニスの魅力に取り付かれると思います。

四十八年度卒 高本 一 道

早いもので、社会人とし、五年があつというまにすぎしてしまいました。クラブはベースを弾き、現在ドラフターです。

会社は株式会社（建設業）設計部設備にて、空調設備及び衛生設備の設計・積算を致しております。

空調設備ではクリーンルーム（BCR等）の設計より一般空調を設計しておりますので、どうぞ何かありましたら、御紹介ください。七月に、長女が誕生し、男の子（三才）と妻と楽しく、生活しております。

同期の紹介いたします。

早川 利文 神戸にて独身生活中 （三菱電機）

小野 田元伸 埼玉にて独身生活中 （日本ビストロ）

五十嵐 正彦 三鷹にて長女、妻の生活中（コバルエレクトラ）

増 政行 埼玉にて長女、妻の生活中（コンピュータと頭のく

らべ中）（日本メモレックス）

萩原 修 埼玉にて独身生活中（そろそろかな？）（三和

栄電気興業）

石井 利雄 新婚中（五十四年四月ごろ親になる予定）（五建設

事務所）

渡辺 勝 千葉にて独身生活中（コバルエレクトラ）

小川 剛司 神奈川にて独身生活中、ガス配管設計（東京ガス）

美しいギター音楽で心の洗濯を心掛けて行きます。以上とりとめのない近況報告になってしまいました。これからも宣しく。

ギターを捨て、テニスコートに出よう！

四十六年度卒 西岡 保夫

学校を卒業して、はや幾年がたち、会社では一線に立たされて、馬車馬の様に働かされている今日であるが、卒業をしてギターを弾いたのは数回しかない。

ギターは、すぐ弾ける所に置いてあるが、なかなかその気になれない。卒業してもギターを弾くおと思っていたが、旋盤やヤスリがけ等で爪はガリガリになり、爪を伸ばしていると危険なので切ってしまった。その時からギターとも縁が切れてしまった。

しかし、仕事以外に楽しみのない人生は、さみしいことであるので、昔から興味のある絵とテニスをしている。

絵画を見ることは、学生時代からしていたが、絵を書くことはなかった。美術学校に入学した。そこは、油絵とデッサンを主流にした絵画教室で、生徒は学生や社会人で、私と同レベルの集りである。一週間に一回で毎月一点づつ仕上げていく。仕事が残り、つかれて学校に行くまでは辛い。絵を書いていく間に、全てを忘れて熱中してしまふ。しかしなかなか満足する作品は出来ない。

テニスの方は、会社の硬式テニス部に加入している。入社した当時は、今の様にテニスブームではなかったが、NO1が電大OBであり、コートが工場内に、三面もある。健康管理上良いので入部した。今ではテニス人口が増えたので、昼食を食べずにコートに行かない

五十年年度卒 湯沢 幸男

前橋郊外の自宅から榛名山へ向かって車で三十分、そこに私の勤務する吉岡中学校がある。榛名山のすそ野の高台に位置するこの学校からは、赤城山、子持山、小野子山の山々から渋川、前橋そして関東平野へと広がる広大な扇状地が一望できる。

田舎教師としてこの学校へ赴任して半年、やつと仕事に慣れてきたところである。他の仕事と違って、毎日に変化の連続である。ただ授業をしていけばよいというわけにはいかない。給食費等の集金から放課後の部活動の指導、時には、タバコを覚えてしまった生徒の指導についての話し合い、そしてテストの採点等々数え上げればきりのない仕事。毎日私を待っている。片書きだけでも理科教諭以外に、三年副担任、進路指導主事、生徒会顧問、放送部顧問として野球部監督となつている。要するに毎日が演奏会のような忙しさである。

こんな忙しさの中に多くの楽しみがあり、その一つに秋の文化祭がある。何故かといえ私の指導する吉中ギターアンサンブルの発表があるからである。必修クラブといつて週にたった一時間だけの授業で生徒にギターを教えている。電大ギターアンサンブルの時にはオンチ同好会の会長までした私ではあるが、クラブの経験とは恐ろしいもので、いまでは編曲（変曲？）をやり、合奏を指導している。この会報が出る頃には無事に吉中ギターアンサンブルの演奏が終わつていけばよいと思うのだが……

追伸 オンチの後輩諸君、オンチにめげずに電大ギターアンサンブルをやり通してほしい。また、同じく生徒にギターを教えている同期の阿部君、小田川君、そして五十一年度卒の佐藤君の健闘を祈

東京電機大学ギターアンサンブル15年の歩み

◇昭和38年

愛好家のサークルとして発足
千葉工業大学文化祭出演

◇昭和39年

クラシックギター同好会(クラシックギターアンサンブル)となり指揮者(講師)として山口治良氏を迎える。

8月 山梨県清里において夏季合宿

◇昭和40年

3月 千葉県富津において春合宿

8月 山梨県清里において夏合宿

12月3日 第1回定期演奏会(全電通会館ホール)

賛助出演:跡見学園短期大学マンドリンクラブ

1st Stage クラシック

ソナタ	ダニエル・フォータ	阿部保夫
ガボット	バッハ	
モーメントミュージカル	シューベルト	阿部保夫
スパニッシュセレナーデ	ビゼー	東条俊明
エチュード2・5・30	キュフナー	
ベルシャの市場にて	ケテルビー	

2nd Stage 跡見学園マンドリンクラブ

インボカチオーネ	サルベッティ	サルベッティ
アルデイラ	モゴール、ドニーダ	
夜明けの歌	いずみ たく	宮田俊一郎
真珠採りのタンゴ	ビゼー	ビゼー
バクダットの太守	ホワイエル	ホワイエル

3rd Stage

独奏 矢沢健司		
アレグロ(OP22より)	F・ソル	
独奏 山口治良		
サラバンデ	ヘンデル	
ソナタ	スカルラッティ	
タンゴ	タルレガ	
アラビア風奇想曲	タルレガ	

ります。

五十二年度卒業 蜂谷 恭一

大学へ入学してから一年、二年……四年、五年とクラブに籍を置いてきた私ですが一年生のときの定期演奏会と幹部の時の一年間が特に忘れられない思い出として頭に焼きついていきます。何もわからずただがむしやりに幹部についていって味わった一年の定演、あの文京公会堂で満員の客席からもらったあの拍手。そして幹部の一年を終えた時のあの安堵感とむなしさそして寂しさ。ほんとうに入っ

て良かったなあーと思いました。今はOBとして少しでも多くの人にあの喜びというか苦しみを味わってもらいたいと思っております。最近ではクラブを離れても同じ釜の飯を喰った仲間というのには気が知れともいいものだなあーとつくづく感じます。月一回のOB会も出席してみれば歳こそ違えど共通の話題を持つ同僚として気楽に付き合え現役の時のOB感とまたひと味趣きの違う雰囲気味あえるのです。OB会やOB総会などを通してたくさんの方々といろいろな話ができたらまた楽しいのではないかと思っております。話は変わりますが趣味として少しスキーをやっておりますので面白い宿やゲレンデなどがありましたらお知らせ願います。スキーって本当にいいですねー。

五十三年度現役 野原 好一

今年の夏合宿は北軽井沢で行ないました。避暑地なので、八月と言えども涼しく快適に過ごすことが出来、またOBの方々もお見えになりまずまずの成果をあげることができました。

夏合宿では定期演奏会へ向ってまずギターを弾き込み、そして部員間の交流を計り特に今までどうしても離れがちだった一年生に、部員としての自覚を持たせ、クラブになじませるよう心掛けてきました。また二年生も一年生、三年生の間でむずかしい学年ですが、来

年幹部という事で、幹部になつてからの活動方針や計画などを話し合い頑張っています。

しかし現在部員数四十五名程で、合宿に参加した者も三十七名でした。合奏などしていてもぼくが一年生の時と比べると、どことなく寂しさを感じました。また人数が減ったことにより一番問題になつて来たのは、ギターパートで、特にラテンなどの曲では、パーカッションや編入楽器に押されぎみになつてしまふ事です。しかし、これによつて演奏をパーカッションや編入楽器に頼るのではなく、ギター一本一本の者を大切に、そして生きたギターの音が出るように頑張りたいと思っております。

今年も去年同様、渋谷公会堂にて、十二月七日に定期演奏会を開きます。はつきり言ひまして、費用面にも、演奏面にも大分背伸びしています。しかし、それだからこそ全員で全力をふりしぼって去年までの演奏会に負けないように、それ以上のものを作る決意です。

アイネクライネ・ナハトムジーク	モーツァルト
ソナタ(OP15-2)	ソル
剣の舞	ハチャトゥリアン
ベルシャの市場にて	ケテルビー

◇昭和42年

3月 山梨県山中湖において春合宿
 4月 [部]に昇格・名を「東京電機大学ギターアンサンブル」と改める。
 8月 群馬県尾瀬戸倉において夏合宿
 11月 武蔵野女子大学文化祭出演
 錦祭出演
 12月3日 第3回定期演奏会(防砂会館)
 賛助出演 共立女子大学放送研究部

1st Stage

夜明け	ロベルト・フィルボ
真珠取りのタンゴ	ビゼー
ブラジル	アリイ・パローゾ
ベサメムーチョ	コンスエロ・ベラスケス
エルチョクロ	ビロルド
ラ・クンパルシータ	ロドリゲス

2nd Stage

二つのメヌエット	W・モーツァルト
サラバンデ	ヘンデル
パッサカリア	J・ボッシュ

3rd Stage

三重奏	山口治良	矢沢健司	河村恭一
軽快な三重奏曲		L・カール	
ギター三重奏曲			
独奏	山口治良		
[組曲]よりババーナ		G・サンス	
フォリア			
モーツァルトの魔笛の主題による変奏曲	F・ソル		

4th Stage

[管弦楽組曲第2番]より	J・S・バッハ
ロンド	
サラバンデ	
ブーレ	

斉藤 勇
 白井 陽
 伊藤 祐春
 伊藤 祐春
 酒井 富士夫
 山口 治良
 G・Wolki
 山崎 政志
 縄田 政治

鈴木 徹

4th Stage ポピュラー

パーサカリエ	
夜明け	ロベルト・フィルボ
タブー	
クシコスポスト	ネッケ
グリーンズリーブス	イギリス民謡
そよ風と私	
シェラモレナ	ガルシア
ラ・クンパルシータ	ロドリゲス

小原 安正
 斉藤 勇
 山口 治良
 宮島 寅次
 東条 俊明
 斉藤 勇
 山口 治良

◇昭和41年

3月 山梨県山中湖において春合宿
 8月 茨城県日立市において夏合宿
 12月3日 第2回定期演奏会(厚生年金会館ホール)

1st Stage ポピュラー

マカレナの乙女	
マイアミビーチ・ルンバ	
イスパニア・カーニ	
エル・ビート	
クシコスの郵便馬車	ネッケ
エル・アマネセール	
ラ・クンパルシータ	ロドリゲス

酒井 富士夫
 斉藤 勇
 宮島 寅次
 斉藤 勇
 山口 治良

2nd Stage 独奏 山口治良

ロマンス	バガニーニ
前奏曲第1番	グイラ・ロボス
スペイン舞曲第5番	グラナドス
入江のざわめき	アルベニス

3rd Stage ギター合奏 山口治良 矢沢健司 河村恭一 他

メヌエット	ベートーベン
二つのメヌエット	J・S・バッハ
日本の歌メドレー	
数えうた	
とうりゃんせ	
さくらさくら	

4th Stage クラシック

エコー	バッハ
セレナーデNO・1	カルリ

民謡集

ある恋の物語

ベサメ・ムーチョ

アルマラン

ベラスケス

井原健爾

井原健爾

山田たかし

◇昭和44年

3月 新潟県石打春季合宿

○ラテンリズム楽器の充実

○9チャンネルミクシングアンプ製作(自作)

4月 三鷹高校同窓会出演

7月5日 重症心身障害児(者)を守る会ウエルフェアショー開催(厚生年金会館ホール)

主催:東京電機大学ギターアンサンブル

同 マンドリン同好会

同 学生赤十字奉仕団

協賛:武蔵野女子大学マンドリンクラブ

後援:NHK厚生文化事業団・重症心身障害児(者)を守る会

東京都社会福祉協議会

富士新報福祉事業団

東京電機大学一部文化部会

8月 福島県沼尻高原夏季合宿

11月1日 指導者として正式に金指至誠氏を迎える。

22日 錦祭ノンタイトルフェスティバル出演

25日 大畑ギター合奏団定期公演出演(朝日生命ホール)

27日 第一観光協会アトラクション出演(豊島公会堂)

12月6日 第5回定期演奏会(九段会館)

1st Stage ポピュラー

枯葉

愛のロマンス

ビギン・ザ・ビギン

黒いオルフェ

その他

2nd Stage クラシック

イギリス組曲

3rd Stage

真夜中のギター

イバネマの娘

夜明け

ある愛の詩

ポロネーズ

メヌエット

パディヌリー

ソナタOP15-2

第1序曲

F・ソル

F・カルリ

玖島隆明

新堀寛己

◇昭和43年

3月 福島県磐梯熱海において春合宿

ラテンリズム楽器導入

メンバーが「ポピュラー」、「クラシック」に別れる

8月 長野県霧ヶ峰高原において夏合宿

11月 錦祭出演

11月30日 第4回定期演奏会(千代田公会堂)

賛助出演:共立女子大学放送委員会

1st Stage フレッシュメン

郷愁

メヌエット

草原

八木節

ロシア民謡

ベートーベン

ハンガリア民謡

群馬県民謡

鈴木 厳

谷口 吉弘

引馬 正雄

鈴木 厳

2nd Stage 合奏4年生

楽興の時

二つのガボット

クシコスの郵便馬車

独奏

さくらさくら変奏曲

アラビア風奇想曲

アストリアス

シューベルト

バッハ

H・ネック

日本民謡

タルレガ

アルベニス

阿部 保夫

コンラート・ヴェルモ

宮島 寅次

斉藤 勇

3rd Stage クラシック

ドレーア

メヌエット

エコー

小フーガ<ザ・リトル>

ブランデンブルク協奏曲 第3番

チェフナー

F・グラニアニー

J・S・バッハ

J・S・バッハ

J・S・バッハ

引馬 正雄

玖島 隆明

引馬 正雄

引馬 正雄

4th Stage ポピュラー

ラ・クンパルシータ

夢のタンゴ

ミッシェル

ロドリゲス

マルデレン

P・マッカートニー

山口 治良

井原 健爾

サムフェア

セビリア

マラゲーニア

スペイン組曲

ソレア

グラナディーナ

サンブラ

サエタ

ヴェネラス

ファルセータ

ファルーカ

ドスベセス

◇昭和46年

4月 白樺湖において春合宿

6月13日 5大学ギター研究発表会(成城大学講堂)

同時出演:共立女子大学クラシックギタークラブ・成城大学ギター部
中央大学古典ギター部・早稲田大学ギターソサエティ

6月26日 第2回ジョイントコンサート(九段会館)

共催:千葉工業大学ギタークラブ

7月5日 教育指導演奏会(千葉県上志津小学校)

8月 尾瀬戸倉において夏合宿

11月 錦祭ノンタイトルフェスティバル出演

12月8日 第7回定期演奏会(文京公会堂)

1st Stage 秋の終わりに

雪が降る

S・アダモ

吉原誠一

黒い瞳

ロシア民謡

井原健爾

ラバースコンチェルト

ロランデル

井桁幹雄

サマーサンバ

M&P・Sバーレ

井桁幹雄

ある愛の詩

フランシスレイ

井桁幹雄

枯葉

ジョセフコスマ

井桁幹雄

ワンレニー・ナイト・イン東京

鈴木道明

井桁幹雄

2nd Stage F・ソルの調べ

スペインのフォリアによる主題と変奏

F・ソル

金指至誠

ソナタ作品15番

F・ソル

金指至誠

ファンタジア

F・ソル

金指至誠

ギター協奏曲“序曲とアレグロ”

F・ソル

金指至誠

シングルベル

その他

◇昭和45年

4月 群馬県尾瀬戸倉において春合宿

6月21日 ギター合同研究発表会出演(成城大学講堂)

同時出演:共立女子大学クラシックギタークラブ,成城大学レスト・アルモニコ合奏団ギ
ター部,中央大学古典ギタークラブ,早稲田大学ギターソサエティ

7月4日 第1回ジョイントコンサート“ギターの夕べ”開催(第一生命ホール)

共催:千葉工業大学ギタークラブ

賛助出演:山脇学園短期大学クラシックギターアンサンブル

8月 静岡県伊豆下田において夏合宿

8月17日 サマーコンサート下田公演(静岡県下田小学校講堂)

11月 錦祭ノンタイトルフェスティバル出演

11月28日 第6回定期演奏会(日本青年館ホール)

1st Stage ポピュラー

クマーナ

ある恋の物語

新倉康史

その名は富士山

新倉康史

タブー

新倉康史

おいしい水

新倉康史

アンチインマイハート

新倉康史

キエンセラ

新倉康史

コーヒールンバ

長縄行雄

2nd Stage クラシック

ブランデンブルク協奏曲6番第1楽章

金指至誠

幻想曲 奈良

金指至誠

千鳥

金指至誠

アランフェス協奏曲第2楽章

金指至誠

3rd Stage ミュージカル&スペイン音楽

ウエストサイド物語

金指至誠

体育館のダンス

マリア

ツッナイト

アメリカ

アイフィンプリティ

クール

ギター協奏曲	M・ジュリアーニ	石井利雄
3rd Stage		
幻想曲“奈良”	近藤恒夫	金指至誠
4th Stage		
マンボNO・5	ベレスブラード	横原一章
ソラメンテ・ウナベス	A・ララ	金指至誠
グリーン・アイズ	ニロ・メネンデス	金指至誠
タブー	M・レクオーネ	金指至誠
マリア・エレナ	バルセラータ	舟山幸一
黒いオルフェ	ルイスボンファ	横原一章
マチルダ	ベネツエラ民謡	渡辺勝
マイアミビーチルンバ	A・フィールズ	渡辺・横原
パーフェティア	A・ドミンゲス	横原一章
ティコ・ティコ	アブレウ	横原一章
マンボ・バカン	ロマンバート	金指至誠
コーヒールンバ	マンツォ	長縄行雄

◇昭和48年

4月	千倉において春合宿	
28日	電大同窓会特別公演(八芳園)	
5月	ゲスト・コンサート・セミナー(ゲスト・ギターリスト 渡辺皓一氏)	
6月	4大学ギター合同研究発表会(電大ホール)	
	同時出演:電気通信大学古典ギター部・中央大学古典ギター部	
	成城大学ギター部	
24日	第4回ジョイントコンサート(九段会館)	
	共催:千葉工業大学ギタークラブ	
8月	長岡において夏合宿	
6日	地方公演(長岡市厚生会館大ホール)	
9月	第1回1・2年研修会(代々木オリンピック村)	
11月	錦祭出演	
12月	渡辺ギター音楽研究所主催コンサート出演(横須賀文化会館中ホール)	
17日	第9回定期演奏会(文京公会堂)	
1st Stage	青春のプロムナード	
	マルタ島の砂	バート・ケンプフェルト
	さらば夏の日	フランシスレイ
	シバの女王	ミッシェル・ローラン
	甘いささやき	G・フェリオ
		横原一章
		塚田吉和
		塚田吉和
		塚田吉和

3rd Stage	炎と舞い	
	火祭りの踊り	M・デ・ファリア
	紛ひき女の踊り	M・デ・ファリア
	かがり火	牧野由多可
4th Stage	ラテンカーニバル	
	ラ・マラゲーニア	ラミレッツ
	ベサメ・ムーチョ	ベラスケス
	キエレメ・ムーチョ	ゴンザレス
	ラ・キエロ・ディヒスステ	マリアグレバー
	キサス・キサス・キサス	オスパルトファレス
	キエンセラ	バプロベルトランルイス
	テキーラ	チャックリオ
	闘牛士のマンボ	P・B・モンデルロ
	コーヒールンバ	マンツォ
		金指至誠
		金指至誠
		横塚勤
		金指至誠
		横塚勤
		金指至誠
		山田たかし
		井桁幹雄
		清水一男
		金指至誠
		金指至誠
		長縄行雄

◇昭和47年

4月	猿ヶ京において夏合宿	
6月	4大学ギター合同研究発表会(成城大学講堂)	
	同時出演:聖心女子大学ギターアンサンブル, 中央大学古典ギター部	
	成城大学ギター部	
7月	第3回ジョイントコンサート(久保講堂)	
	共催:千葉工業大学ギタークラブ	
8月	野尻湖において夏合宿	
11月	錦祭出演	
12月9日	第8回定期演奏会(文京公会堂)	
1st Stage		
	ジャニーギター	B・ヤング
	ロミオとジュリエット	ニーノ・ロータ
	ゴットファザー愛のテーマ	ニーノ・ロータ
	ふたりの天使	サン・ブルー
	チエイク・フアイブ	D・ブルーベック
	イパノマの娘	A・C・ジョビン
	フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン	B・ハワード
	ミスター・ロンリー	ボビー・ビルトン
2nd Stage		
	ヴィエラ協奏曲	F・ソル
	エンカレッジメント	F・ソル
		金指至誠
		金指至誠
		渡辺勝
		渡辺勝
		渡辺勝
		渡辺勝
		横原一章
		横原一章
		横原一章
		渡辺勝

ロミオとジュリエット	ニーノロータ	加藤孝之
ラブミー・トウナイト	M・パンゼリ	五十嵐文彦
やさしく歌って	カルロス・フォックス	塚田吉和
コラソン	キャロルキング	五十嵐文彦
エーゲ海の真珠	ジョルジュブラッサンス	小田川欣市
天使のセレナーデ	アンドレポップ	加藤孝之
涙のトッカーター	ガセトンローランド	五十嵐文彦
2nd Stage ギターコンチェルトの調べ		
二つのマンドリンと弦楽のための協奏曲 OP21	ビバルディ	石井利雄
ギター協奏曲“大序曲” OP61	ジュリアニ	石井利雄
3rd Stage 日本の旋律		
日本狂詩曲“夜曲”“祭り”	伊福部 昭	石井利雄
4th Stage ラテンエクスペーション		
ボンゴ・コンチェルト	ベレスブラウド	五十嵐文彦
ベサメ・ムーチョ	ベラスケス	小田川欣市
グラナダ	A・ララ	小田川欣市
エストレリータ	M・M・ボンセ	加藤孝之
オジェネグラ	N・モラレス	五十嵐文彦
八木節	日本民謡	五十嵐文彦
ブラック・マジック・ウーマン	カルロス・サンタナ	五十嵐文彦
エルマンボ	ベレスブラウド	塚田吉和
ブラジル	アリーバゾーロ	五十嵐文彦
コーヒールンバ	マンツォ	長縄行雄

◇昭和50年

- 3月 御宿において春合宿
- 6月 3大学ギター合同研究発表会(電大ホール)
同時出演:成城大学ギタークラブ・中央大学古典ギター部
- 7月5日 ジョイントコンサート(虎ノ門ホール)
共催:東海大学ギター音楽研究部
- 8月 戸狩において夏合宿
- 9月 第3回1・2年研修会(代々木オリンピック村)
- 10月 ゲスト・コンサート・セミナー(ゲスト・ギターリスト 渡辺 晴一氏)
- 11月 錦祭出演
- 12月11日 第11回定期演奏会

1st Stage 四季の流れに		
アケリアス	Gマックデルモット, Jロード, Gラグニ	脇山信也

青春の光と影	ジョニーミッシェル	渡辺 勝
青い影	デーリーブルーカー	渡辺 勝
アイアンサイト	クインシー・ジョーンズ	渡辺 勝
はるなる影	パートバカラック	塚田吉和
2nd Stage F・カルリの調べ		
ディオ OP34	F・カルリ	手島睦夫
ノクターン OP143	F・カルリ	金指至誠
セレナーデ 1番 OP96	F・カルリ	金指至誠
3rd Stage 日本の旋律		
雅楽・越天楽	未詳	向井利行
交響譚詩 一楽章	伊福部 昭	石井利雄
4th Stage ラテンジャンボ		
エルマンボ	ベレスブラウド	猪俣 博
ラテンシャロム	イスラエル民謡	金指至誠
ジョローナ	メキシコ民謡	塚田吉和
ガンタナメラ	キューバ民謡	塚田吉和
ある恋の物語	K・エレタアルマラン	金指至誠
ラ・バンバ	メキシコ民謡	石井利行
南京豆売り	モイセスシモンズ	塚田吉和
マラゲーニャ	エルネスト・レクオーネ	塚田吉和
マンボNO・5	ベレスブラウド	横原一章
闘牛士のマンボ	P・B・モンテルド	金指至誠
コーヒールンバ	マンツォ	長縄行雄

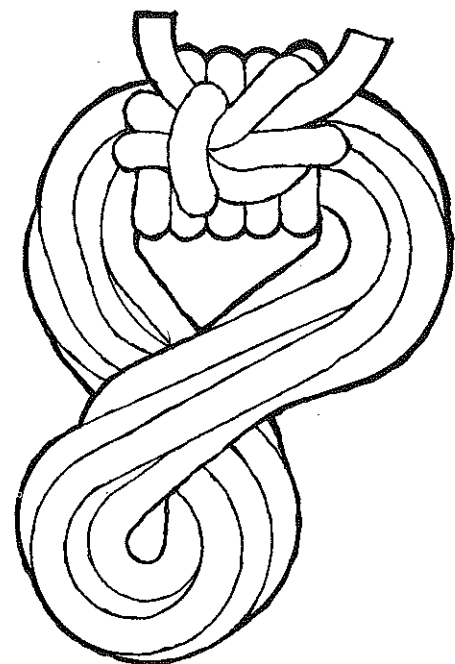
◇昭和49年

- 3月 千倉において春合宿
- 6月 4大学ギター合同研究発表会(電大ホール)
同時出演:電気通信大学古典ギター部・中央大学古典ギター部
聖心女子大学ギターアンサンブル
- 8月 信濃平において夏合宿
- 9月 第2回1・2年研修会(代々木オリンピック村)
- 11月 ゲスト・コンサート・セミナー(ゲスト・ギターリスト 滝波 嗣雄氏)
錦祭出演
- 12月11日 第10回定期演奏会(文京公会堂)

1st Stage 夢のささやき		
ピタースウィート・サンバ	S・レイク	猪俣 博
イエスタディー・ワンスモア	リチャードカンペーター	塚田吉和

12月18日 定期演奏会(文京公会堂)

1 st	ジーザス・クライスト・スーパースター	林 健 治
	そよ風の誘惑, サンホセへの道	吉 水 ・ 蜂 谷 , 大 島
	涙のくちづけ, Love Music	星 野 隆, 脇 山 信 也
	愛は夢の中に, ジョニーへの伝言	星 野 隆, 坂 下 喜 一 郎
	バーリー・スペンサーの日々, エーゲ海の真珠	柳 谷 道 生, 小 田 川 欣 市
2 nd	ベルジャの市場	A・ケテルビー
	アイネ・クライネ・ナハトムジーク	W・A・モーツアルト
3 rd	交響譚詩 第2楽章	伊福部 昭
	交響的小組曲	オリジナル曲 作曲・編曲
4 th	ボンゴ・コンチェルト	ペレスブラウド
	ピーナニベンダ	モイセス・シモンズ
	キエンセラ	P・B・ルイス
	パーフェディア	A・D・ドミンクス
	ビバ・アメリカ	S・ギスピー
		C・フランコイス
	Do-Le-Mi	R・ロジャース
	チャチャチャ・フラメンコ	M・D・ヘスース
	タカタカタ	未 詳
	キューバンマンボ	ザビア・クガート
	コーヒールンバ	マンツォ
		松 浦 聖 次
		塚 田 吉 和
		大 島 真 孝
		大 島 真 孝
		今 村 彰 孝



思い出の夏	ミッシェル・ルグラン	玉 野 和 信
蒼いノクターン	ポールモーリア	今 村 彰 孝
神の丘	チャック・マンジョーン	玉 野 和 信
古城	M・ムソルグスキー	脇 山 信 也
ラバース・コンチェルト	デニー・ローデル	今 村 彰 孝
オリーブの首飾り	クロード・モルガン	今 村 彰 孝
コンスタントレイン	ジョージ・ベン	今 村 彰 孝
2 nd Stage 陶酔への誘い		
ソナタ八長調 OP15	M・ジュリアーニ	手 島 睦 夫
コルドバ	I・アルベニス	面 川 正 史
弦とオルガンのためのアダージョ	T・アルビノーニ	石 井 利 雄
3 rd Stage 現代音楽 "ギターと管弦楽のための律動"		
音響譚詩	伊福部 昭	石 井 利 雄
抜頭によるコンポジション	片 岡 良 和	脇 山 信 也
4 th Stage ラテン・ダイナマイト		
エルマンボ	ペレスブラウド	塚 田 ・ 小 田 川
マンボNO・8	ペレスブラウド	玉 野 和 信
ある古い唄の伝説	O・グアラニ	今 村 彰 孝
アドロ	A・マンサネーロ	玉 野 和 信
縁は異なるもの	M・グレベール	今 村 彰 孝
デリカード	W・アゼベート	玉 野 和 信
マイアミビーチ・ルンバ	A・フィールズ	脇 山 信 也
クヌーナ	B・ヒルマン, B・アレン	今 村 彰 孝
エル・クンバンチェロ	L・エルナイデス	玉 野 和 信
マンボNO・5	ペレスブラウド	今 村 彰 孝
コーヒールンバ	マンツォ	長 縄 行 雄

◇昭和51年

- 3月 御宿にて春合宿
- 5月30日 5大学ギター合同発表会(電大ホール)
同時出演: 東海大学ギター音楽研究部・成城大学ギタークラブ
中央大学古典ギター部・山脇学園短期大学ギターアンサンブル
- 6月23日 ジョイントコンサート(杉並公会堂)
共催: 女子栄養大学ギタークラブ
- 8月 戸狩において夏合宿
- 9月 第4回1・2年研修会(水元青年の家)
- 11月 錦祭出演

15周年記念寄付事業報告

皆様の温かい御支援と御協力を得まして下記に示すように多大な寄付を頂き、昨年12月2日にOB会役員より現役に40着のクリーム色のステージコートを贈ることが出来ました。現役部員も非常によろこび、第14回定演に花をそえることが出来ましたことを御報告致します。尚、残額は15周年記念基金としてOB会と現役とで共同管理をし、OB会活動及び定演等で必要な時に一時金として運用していきたいと思っております。

収 入	支 出
寄 付 87口(73人)×5,000円	ステージコート 260,000
計 435,000円	会議費(新東京ホテル等) 23,990
	事務連絡 17,570
	計 301,560円
差引残高 133,440円	

15周年記念寄付名簿

38年度卒 口数	川崎 善明 1	大塚 慶一 1	岡田 佑一 2	金井 健児 1
矢沢 健司 2	織田 和 1	河野 延広 1	手島 睦夫 1	加藤 雅久 2
金坂 武彦 1	高松 滋雄 2	新倉 康史 1	宮坂 利明 1	52年度卒
根本 修 2	44年度卒	小林 猛 1	季 泰秀 2	蜂谷 恭一 1
山崎 元 2	平野 研二 2	西岡 保夫 1	鎌田 稔之 1	星野 隆 1
39年度卒	桑原 芳一 2	高野 敏昭 1	高橋 修作 1	櫛谷 道生 1
内堀 勇武 2	小泉 博司 1	47年度卒	塚田 吉和 1	清水 敏夫 1
40年度卒	45年度卒	横塚 勤 1	50年度卒	樋口 誠 1
河村 恭一 2	野島 義雄 1	吉原 誠一 1	湯沢 幸男 1	大島 真孝 1
大畑 庄司 2	深谷 憲文 1	井桁 幹雄 1	五十嵐文彦 1	坂下喜一郎 1
西部 康二 2	榊原 敏之 1	田中 清生 1	加藤 孝之 1	林 健治 1
41年度卒	高橋 信夫 1	野本 直人 1	高橋 正之 1	松浦 聖次 1
大泉 誠 1	馬場 秀幸 1	48年度卒	阿部祐之助 1	太田 進 1
42年度卒	川上 徳和 1	高木 一道 1	大野 忠美 1	吉水 文夫 1
小田喜信博 2	46年度卒	萩原 修 1	小田川欣市 1	大谷 茂 1
川口不二夫 1	長縄 行雄 1	小野田元伸 1	樋浦 敏 1	佐原 啓介 1
佐藤 実 1	宮島 富士 1	石井 利雄 1	51年度卒	
43年度卒	山尻 隆文 1	49年度卒	玉野 和信 1	

昭和53年度会計報告

収 入	支 出
前年度繰越金 64,847	会報(第2号)住所録 70,000
会 費(31名) 93,000	定 演 花 束 20,000
広 告 代 20,000	ジョイント花束 13,000
寄 附(西部氏,川崎氏) 14,000	新OB歓迎新年会 27,524
会費先払い分 6,000	親 睦 会 340
	会 議 費 27,450
	事 務 連 絡 38,370
計 197,847	計 196,684
残 高 1,163	

会 計 後 記

ほとんどの会員が年毎に現役と現役時代と疎遠になってしまうのが現実です。そんな中で15周年記念と銘うって現役とOBの間に新しい回路を設け両者に色々な意味での刺激となる企画が打ちだされました。この企画の案が決定された時、はたして目標額迄寄附金が集まるかどうか危惧したのは会計の私だけではなかったと思います。しかし各運営委員の働きかけや、増して現役に直接の援助という主旨の為に二口寄附の会員も多く、又遠い地方の方も送金して頂きました。

又ステージコートの代金も当初の見積り額よりも何度かの交渉の結果大幅に安く出来上がりました。その為に左記の残金が出来ました。

年ごとに増えていく会員と地方の会員とを自然に結び続けられるよう運営委員もない知恵を絞っています。特に会計としてはこの第三号会報の代金とか、なんとか会費の集まりがよくなるかとか——どうぞよろしく。

尚、会費は下記に示す口座へ振り込むか、直接会計(高松)まで郵送して下さい。

○ 三井銀行常盤台支店口座 NO-968-765, 東京電機大学ギターアンサンブルOB会

○ 郵便振替へは 口座番号 東京2-91725 東京電機大学ギターアンサンブルOB会

54年度 総会及び上期親睦会の御知らせ

前年度は、クラブ15周年記念として、各催しもたれましたが、なお一層の興隆を計るべく、54年度、総会、親睦会を下記の通り、開催することになりましたので、御連絡申し上げます。

日 程

54年4月29日(日) 13時30分 現役によるギター発表会 7号館ホール
17時 総会・懇親会(神田近辺)

54年4月30日(月) 10時 現役とのソフトボール大会 小金井グラウンド

集合場所

4月29日午後1時半電大七号館ホール

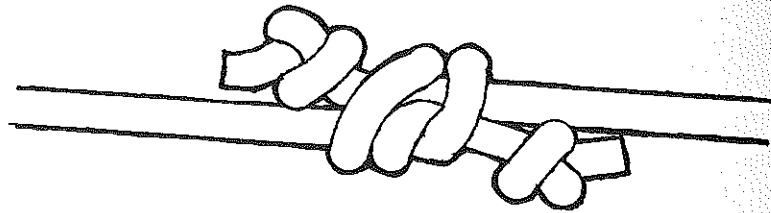
費 用 総会五千円の予定 宿泊三千円の予定(素泊り)

ソフトボール大会(昼食及び飲物代) 1000円

親睦会は、OBだけでなく現役との触れ合いも兼ね、現役の方には、OB会の理解を、OBの方には現役を暖かく見守り、OB、現役一体となり、OB会、クラブの発展に寄与する事を念願し、その為には、両者の懇親を一層深めるよう、ソフトボール大会を催すことになりました。

今回は、地方の方にも御出席いただくよう上記のように計画を組みました。上記趣旨を御理解の上、是非、御参加いただくようお願い致します。

同封の葉書にて、出欠を御連絡して下さい。なお欠席の場合は、委任状及び近況報告を4月7日迄に御送り下さい。



昭和54年度行事予定

昭和53 54年度OB会々動予定(案)は下記の通りです。尚()は現役の活動予定です。

54年 1月 新OB会員 オリエンテーション(新年会)

3月 第3号会報発行

(春期合宿、於千葉県御宿、期間 3/24~3/31)

4月 OB総会、親睦会、現役/OB交流会 4/29~30 於電大

(新入生オリエンテーション、発表会:4月29日於電大)

6月 第4号会報発行

(女子栄養大学合同発表会:6/10 於電大)

(発表会:6/27 於電大)

8月 (夏期合宿、日時、場所は未定)

10月 親睦会

12月 忘年会

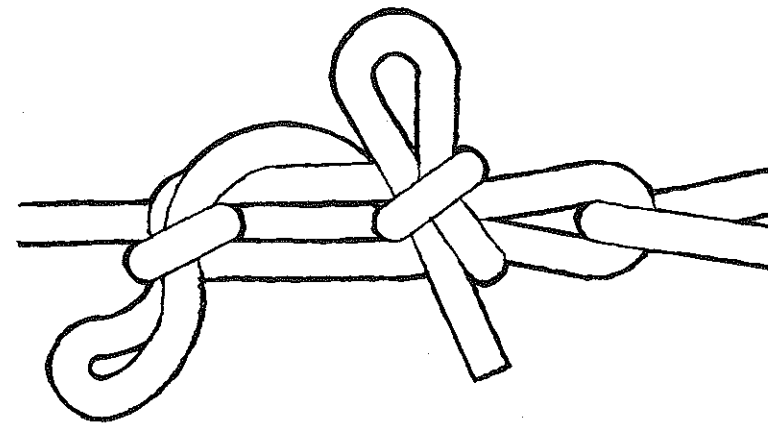
(第15回定演:12/6 於渋谷公会堂)

55年 1月 新OB会員 オリエンテーション(新年会)

以上

尚、運営委員会は昨年度同様に毎月第3土曜日、PM6:30より新宿の“穂高”で行います。

これはOB会の連絡日となっておりますので何か御意見・御希望がありましたら御自由に御出席下さい。



セールスエンジニア募集

各種プラント設計管理

営業品目

- (株) 明電舎代理店
 - 水処理プラント
 - (上水及下水)
 - 自動車試験プラント
 - (排気ガス及性能・耐久)

- 東京芝浦電気(株) 代理店
 - 情報処理システム

豊産業株式会社

千代田区丸の内1丁目2番1号(東京海上ビル)

TEL 03-213-0951(代)

豊エンジニアリング株式会社

千代田区内神田1丁目8番11号

TEL 03-292-8409(代)

連絡場所 43年度卒 高松まで

TEL(960)8585

編集後記

この15周年特集号を発行する切掛になったのは昨年春、OB会の中で特に新OBとの交流がスムーズに行かないとゆうことで、色々と話し合をしたのですが、その結果として、座談会「ギターアンサンブルの15年の歩み」を開くことになりました。座談会は4時間以上にも及び、録音したカセットテープを出席者人数分ダビングして、各自に約1ページになるように編集してもらいました。

この座談会によってクラブの15年間の流れを把握できるようにと、又、行事及び定演プログラム記録は今後、現役の活動の参考になればと思いつけ加えました。予算のやり繰り及び記録の収集等には時間がかかり、昨年発行する予定がだいぶ遅れましたが、今まで定演を通してしか知り合う機会がなかったOB会員同志がこの会報を通じて互に理解し、交流が出来るようになれば今迄かけた時間と金は無駄にならないと思います。15周年記念寄付事業も予想以上の成果を上げ、これも、現役のクラブを思う気持はOB全員同じだとゆうことになると思います。今後もこのOB会報を通し、親睦を計りたいと思いますので多くのご投稿をお願いして筆をおろします。

K・Y生

